

中学3年 作曲者の思いを感じ取りながら、 音楽を味わおう「ブルタバ(モルダウ)」 【多面的な曲のとらえと味わい方】

音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽のよさや美しさを味わってほしい、音楽によって喚起されたイメージや感情などを自分なりの言葉で伝えてほしいと願い、鑑賞の実践として「連作交響詩『我が祖国』より『ブルタバ(モルダウ)』」を取り上げた。「ブルタバ」は、標題に沿って作曲されているため、情景がイメージしやすい曲である。また、曲想の変化がとらえやすく、音楽の構造と結びつけて考えやすい。さらに、作曲者が曲に込めた思いについて既習曲と比較することで、作曲者の祖国を愛する思いを曲から感じ取り、曲全体を深く味わうことができると考えた。この曲のよさを友達と意見交流する中で、生徒一人一人の多様な感じ方に触れながら、音楽を味わうことができるよう、次の実践を行った。

<学習活動の実際>(2時間完了)

時	○ 学 習 活 動
I	<p>目標：標題音楽から情景を感じ取り、作品の時代背景を知る。</p> <p>○スメタナ作曲「連作交響詩『我が祖国』より『ブルタバ(モルダウ)』」の標題と楽譜を結びつけながら聴き、各標題場面のイメージをもつ。</p> <div data-bbox="225 1032 932 1317"> </div> <div data-bbox="938 1032 1423 1317"> <p>D 月の光、水の精の踊り</p> </div> <p>なめらかで静かな旋律が、神聖で静かな結婚式を表しているみたいだったから、C(農民の結婚式)だと思った。</p> <p>ヴァイオリンの高い音が、優しく月の光が差し込んでいるように感じたから、D(月の光、水の精の踊り)だと思った。</p> <p>○曲の構成について知る。</p> <p>○曲中に表れる3回の主題を比較鑑賞する。</p> <div data-bbox="256 1585 900 1912"> </div> <p>音を重ねるなどして、1回目と3回目の雰囲気を変えていて、情景の変化を表していると感じました。</p> <p>・3回目の主題は力強い ・音をはねる感じ ・テンポが速い ・短調→長調 ・楽器が増えた</p>

○既習曲「交響曲第5番ハ短調」と比較し、作曲家スメタナが曲に込めた思いについて自分の考えをもつ。

城を表しているGはオクターブで演奏されていて、音の厚みを感じた。作曲家や国民にとって城は偉大なもので、国民の宝物だと表したかったのだと思った。



3回目の主題Fは、テンポも調も変わって川の大きさを感じたから、祖国の川を誇りに思っているのではないかと感じた。

 <p>ベートーヴェン (ドイツ) 「交響曲 第5番 ハ短調」</p> <p>曲に対する思い ・難聴による苦しい思い ・音楽をおさめたくない ・遺書をのすほどの辛さ</p>	 <p>スメタナ (チェコ) 「交響詩 『我が祖国』(ボヘミア)」</p> <p>曲に対する思い ・祖国を忘れてほしくない ・チェコのみなを勇気づけたい ・チェコ自然や文化を愛している ・祖国への愛</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



ベートーヴェンは暗めの曲で辛さを表したのに対して、スメタナはチェコの未来をすごく前向きに考えていて、そういう前向きな気持ちをいろんな人に伝えたいからこの曲を作ったと思います。

ベートーヴェンは、自身の苦悩や不安を曲にしていたけど、スメタナはチェコの独立や自由、民族の誇りを表現しているんだと思います。



曲の背景を知ると音楽の聴き方が変わった。作曲者の気持ちが伝わってくる気がするよ。

2 目標：意見交流により、3回の主題の構造を比較して感じ取った作曲者の思いに迫る。

○作曲者が曲に込めた思いについて、各標題の音源をタブレットPCから流して確認しながら話し合う。(グループ学習→全体学習)

ベートーヴェンの交響曲5番とは違って、スメタナは曲の中に祖国への愛や誇りを込めたんだと思う。

3回目の主題は、強く、テンポが速く、長調になっているから、大きな川が堂々と流れる情景を表現したかったんだと思う。

主題が短調から長調に転調することで、エネルギーが増していく感じがする。



タブレットでもう一回標題部分を聴いて、曲の構造を確かめよう。



曲中にチェコ naturally or legends
を表現したのは、祖国を取り
戻したいというメッセージだと
思いました。

作曲者が曲に込めた思いを自分なりに考え、友達の見解とも照らし合わせて聴いてみたら、作曲者の思いがさらにはっきりとするようになった。

「ブルタバ」は、川の情景を表しているだけではなく、スメタナのチェコへの強い愛国心が込められているんだ。



<省察>

比較を取り入れたことで、曲想の変化や違いを感じ取り、音楽の構造や時代背景と結びつけ、作曲者の思いについて自分なりに受け止め、言葉に表すことができた。また、視覚的にとらえられる情景画や作曲者自身の言葉により、イメージが喚起されたり曲に対する理解が深まったりした。標題とメロディの関係や主題の変化を通して、音楽のよさを感じることができたと考える。学習形態については、少人数のグループでの意見交流の場をもつことで、全員が自分の考えを言葉にして伝えることができた。また、音楽的な根拠を、タブレットPCの音源で示しながら考えを伝え合うことにより、共感したりさらに説明を求めたりする姿も多く見られ、友達のことを理解する上で有効だった。感じたことを言葉に表して伝え合うことは、多面的に音楽のよさを感じることにつながったと考える。